

## 湖水かけ流し・クロレラ給餌飼育によるイケチョウガイ稚貝生産

久米弘人・孝橋賢一

### 1. 目的

県内で生息個体数が激減している琵琶湖固有種イケチョウガイの系統保存を行い、将来的に真珠養殖に再び活用することを目指してイケチョウガイの稚貝生産を行った。

### 2. 方法

砂を1~2 cm敷いた容量80リットルの水槽に、湖水をかけ流し3回転/日になるように注水し、脱離稚貝を630個~2,200個/槽の密度で5~6月に収容した。現在の真珠母貝の稚貝生産は、真珠養殖漁場の湖水をかけ流す方法で生産されているが、当場の湖水は琵琶湖北湖からポンプによりくみ上げており、真珠養殖漁場の湖水に比べると餌料環境が著しく悪いため、市販クロレラ原液を朝と夕に8mlずつ給餌した。8月以降は市販クロレラ原液を10倍希釈したものを送液ポンプで注水口に滴下し、注水とともに常時給餌するようにした。湖水の注水量は24回転/日とし、水槽のクロロフィル濃度は、 $13\mu\text{g}/\text{l}$ ~ $57\mu\text{g}/\text{l}$ で推移した。

### 3. 結果

生産した稚貝の数や大きさは表1のとおりであった。9月末までに計386個の稚貝を生産することができ、全体の平均殻長は26.9mmであった。



図1 飼育水槽

水本ら<sup>1)</sup>によると、南湖における成長が休止した冬季の0年貝の殻長は3.26cmと報告されており、本研究でも同等のサイズの稚貝を生産することができた。昭和49年(1974年)に実施された、砂を敷いた池への湖水かけ流し飼育による脱離稚貝から稚貝までの生残率は約2~27%となっており<sup>2)</sup>、水槽5と6は当時と同等の生残率であった。



図2 生産した稚貝(一部)

表1 湖水かけ流し・クロレラ給餌飼育による生産結果

水槽No	1	2	3	4	5	6
脱離稚貝収容日	5/26	5/28	5/31・6/2	6/12	5/31,6/16,18	6/10,12
脱離稚貝収容数	900	2200	1350	630	1230	2050
9月末時点の生産数(生残率(%))	5(0.5)	6(0.3)	12(0.8)	4(0.6)	109(8.9)	250(12.2)
平均殻長(mm)	32.2	22.6	23.7	18.5	22.6	29.1
最大殻長/最小殻長(mm)	34.5/26.7	24.3/19.3	31.6/14.3	22.6/15.9	30.0/14.7	38.7/14.3

1) 水本ら(1959) イケチョウガイの増殖に関する研究-VII イケチョウガイの成長について. 滋賀県水産試験場研究報告第10号, 19-32

2) 特公昭53-38231